

## 令和2年度 第2回中野市立図書館協議会会議録

開催日時 令和2年12月16日(水)午後4時03分から午後4時52分

開催場所 中野市立図書館 2階会議室

出席者

(委員)

丸山安則会長、内堀きみ江会長代理、加藤善彦委員、小林俊郎委員、嶋田伸次委員、湯本正博委員、郷道哲章委員、高野澄江委員

(事務局 市立図書館)

池田館長、竹内副館長、小林主幹

欠席者

白井智子委員、岩戸貞彦委員

会議内容

1 開 会 竹内副館長

2 あいさつ 池田館長、丸山会長

3 会議事項

(図書館条例第9条第1項の規定により、会長が議長を務める。)

(1) 図書館総合管理業務委託の5年間の長期継続契約(案)について

(質疑)

委 員: 昨年2月28日の会議のときに5年間の長期継続契約になると話をしていたと思うが。

事務局: 昨年度も5年の長期継続契約で考えていたが議会で否決になった。今回は条例を整備し改めて5年間の長期継続契約をお願いするものです。

委 員: 5年間の長期継続契約は利点があると書いてあるが、これから入札して利点が確保されるのか。例えば新型コロナのようなことがあれば、単年の方がメリットがあると思うが。

事務局: 従業員について単年度よりも5年間の方が安定した雇用が図れるなどのメリットがある。

委 員: 司書の有資格者を採用条件にすることはできないのか。

事務局：仕様書では、業務従事者の7割を司書・司書補・司書教諭資格を有する者にしよう努めることとしている。

委員：令和元年度の年度評価で市職員の関与の度合いを減らすことが可能とあるが、詳しく教えてほしい。

事務局：例えばレファレンスは市の業務となっているが、受託業者が経験を積むことでより専門的な業務を行うことができると考えている。

事務局：直営でなくなるということを心配されていると思うが、カウンター業務と施設管理の2つの業務を委託に出しているだけで、図書の選定、購入は直営でやっている。なお、関与を減らすというのは、令和元年度の業務から空調設備保守業務と閉架書庫小荷物専用リフト保守点検業務を追加したということである。

委員：全国では指定管理に出している図書館もあるが、中野市立図書館は図書館の基本方針は市で、民間に手伝ってもらっているということで理解してよろしいか。

事務局：そのとおりです。

(挙手全員により図書館総合管理業務委託の5年間の長期継続契約について承認された。)

## (2) その他について

事務局から新型コロナウイルス感染症に係る図書館の状況を説明。

委員：図書除菌機をもっとPRしてほしい。職員が声を掛けるなどしたらどうか。

事務局：今までは返却時に職員が本の表裏を拭いているが、図書除菌機は本を扇形にセットして中身も除菌できるものである。

場所については、今はカウンターで受付と検温をするためバリケードを設置しているため、使用しにくい場所になってしまっている。

これからセルフ貸出機が2台導入されるので、その場所の近くにするとか検討していきたい。

委員：今は来年度の予算を作成している時期だと思うが、資料購入費の削減を抑えてほしい。また、受託業者と業務を上手にやってほしい。

事務局：財政当局との折衝となるが、努力していきたい。

事務局：受託業者とは連絡を密にして対応しています。

## 5 その他

(その他における質疑)

委員：働いている人のアンケートは取っているのか。

事務局：今までは市の臨時職員だったため補助的な業務であったが、受託業者になって、やりがいを持って業務に取り組んでいるという声は聞いています。

委員：先日、学校図書館の研修を中野市立図書館で行い、そこへ市立図書館職員も参加してもらった。学校図書館と公立図書館は協力しているということを、この場をお借りして委員の皆さんにも知ってもらいたい。

委員：県立歴史館にいた経験から、直接雇用している職員は対応がよくなかった。受託業者の民間職員の方が真剣に業務に取り組んでいた。

6 閉 会 午後4時52分